

令和2年度 日田もりビジョン推進検討委員会 議事録

日 時 令和2年10月7日(水)10時～12時

場 所 日田市役所 4階庁議室

次 第

- 1、開会
- 2、林業振興課長あいさつ
- 3、委員の委嘱
- 4、委員紹介
- 5、委員長改選
- 6、委員長あいさつ
- 7、議題

(1) 日田もりビジョンの取組状況について

- 8、意見交換

テーマ 災害に強い森林づくりについて

【質疑・応答】

(委員)

人材育成の関連で、全国の高校で林業科があるものは3校である。日田林工、熊本県の芦北高校、愛知県の田口高校である。その責任を感じ取組を進めていきたいが、市の行事を行う際に、林業科の生徒・職員にも声掛けしていただき、是非森づくり行事にも参加したい。例えば、木と暮らしのフェアにも本校のブースも考えて頂きたい。また、本校の演習林76haを整備していくためには、生徒・職員だけでは物理的にも無理ですので、市・県事業と連携し、生徒に森づくりの体験をさせて、その経験を就業につなげていきたい。また、GISやドローンもやってみたいし、森林認証にも取り組みたい。

(委員)

取組の説明の中で、色んな良い事業の紹介もあったが、現実的に将来、日田の森づくりがどういった形になるのか、一般市民にわかりづらいし、思い浮かばない。そこを分かりやすくするのが、この日田もりビジョンが最大の役目だと思う。その中の災害に強い森づくり関係で、平成29年の福岡県朝倉から日田の大鶴・小野の一連の災害の後に、林業関係者にはしっかりと間伐を行えば森は大丈夫と言う話もあるが、壊れにくい山をつくるためには、災害に強い森づくりとして、多面的機能が十分に発揮される森づくりが重要である。また、流れ木となりやすい溪流沿いの溪流防災帯の区域まで木が植えられているので、この対策も必要である。

(委員)

日田家具の歴史は、豊富な森林資源を背景に、木工業として古くは木のお盆、木の器、特に炭鉱用作業服向けの洗濯板、大衆食堂やスマートボール用の丸椅子等を製作していた。高度成長期以降には、従来の椅子づくりの技術を生かし、応接セット、ダイニングセット、足もの家具等製作し、全国的な生産地の1つである。

また従来は、硬くて加工しやすい外材を使用していたが、柔らかく加工しにくいスギ・地域材が、近年の加工技術・乾燥技術の向上により、十分な強度を持った商品ができるようになったので、日田家具にもブランディングに地域材を使った商品開発を進めている。その中で、新たな取組は、コロナ禍における新しい生活様式例えば、リモートワーク用の商品開発や、市とタイアップし、小中学校の机椅子の開発として、現在使用している15年前の机椅子がかなり傷んでいるため、これを入れ替える計画で、サンプル品の製作を学校現場で子供達へのヒアリングを行いながら進めている。そのほか、家具のネット販売、PCサイトも強化している。

(委員)

最近、市内に20～30区画の分譲地が数件でており、その中で木造住宅の新築が多いと感じており、私の仕事関係にも、市の事業、木づかい促進事業（日田材の支給）の助成を使わせてもらっている。多いのは、20代後半から30代の若い方たちが70坪以下の土地に、地元の工務店等に頼んで木造を建てている。

(事務局)

木づかい促進事業のうち、住宅のリフォームは、通常15万円分の現物支給を行っていたが、今年度はコロナ対策として、20万円に増額したところ、例年100件の実績に対し、現在で200件を超える申込みがある。また、新築分は、消費税増税後、若干、件数が落ち込むと思われたが、先程のお話しのとおり、若者の新築や分譲地の増加により、例年並みの申込み状況である。

(委員)

木づかい促進事業の受付窓口等の事務手続を行っているが、予想以上に申込みが多いため、早く申請した方の先着順となりそうなので、今後の予算増額を考慮していただきたい。

(委員)

我々が実際に取り組んでいるものは、3ページの流木被害緊急対策事業として、溪流沿いで流れ木となりそうな樹木を事前に伐採するなど、今後流木被害が起きないように事前の対策を行っている。そのほか、新規事業として、市が先導的に市有林の中で、航空レーザ計測データを活用した下刈り等のスマート林業の実証実験を行うため、それらを参考に今後の事業展開を図っていきたい。

(委員)

大径材の素材価格の問題は、月2回の原木協同組合の会議でも課題とされ、山主さんも長年育てた大径材が1万円/m³で売れても納得できず、1万5千円/m³を希望される。また、大径材に少し節があれば、値段が下がり7～8千円代/m³となり、今は海外への輸出材も増え、買って頂いているが、今後はC材価格の底上げ強化をしていく必要がある。

(委員)

大径材の用途の問題は、なかなか難しい課題で全国的な問題である。大きい材の中心は、柱など角材として使用しても、その周辺は用途がないため丸太価格が上がらない。特にスギの4丁取り、9丁取りは乾燥が難しく曲ってしまう。大径材利用でヒットしている事例としては、スギの大径材を板製材した製品（リノベーション用無垢材）があり、ホームセンター等でDIY用として継続的に売れている。2番手で同様の商品を買ってもヒットしないので、引き続き新たな用途を探す必要がある。

8、意見交換

・テーマ 災害に強い森林づくりについて

(委員長)

災害に強い森づくりは難しい問題で、多くの専門家を交えて作らないと狭い範囲での施策となる。日田林業の歴史を優先すると、尾根から谷まで一斉整備し、経済面で良かったが、近年は線状降水帯などで多くの水害が発生している。そのような中で、どう広葉樹を増やしていくかなど、多くの意見を聞く必要がある。

(委員)

山にどういう形で広葉樹を入れ込んでいくのか。その入れ込み方がポイントである。国有林の例では、早くから行っており、溪流防災帯で溪流沿いを広葉樹で固め、それから尾根・尾根筋も広葉樹にする。さらに急傾斜地も広葉樹にする。では実際、広葉樹をどうやって入れるかは非常に難しいですが、良いのは伐採するときに、一定程度残しながら伐採すること。これは広葉樹の成長が非常に遅いため、新たに植えて林になるまでに時間がかかるためである。さらに広範囲を伐採する場合は、特に残すところ（保残帯）を決めて伐る必要がある。

また、広葉樹を植えた後の間伐の必要性など、スギ・ヒノキと違った管理の検討を行いながら、山づくりを進めて行く必要がある。これらは、ある程度モデルづくりを行い、また国県市の支援を行わないと、私有林の整備では前に進んでいかないと考える。

(委員)

造林補助事業において、溪流沿いの支障木の除去や広葉樹林化に取り組んでいるほか、本来広葉樹であるべき尾根沿いや急傾斜地等は、平成30年度から少しずつではあるが広葉樹林化を図っており、災害に強い森づくりを進めている。

(委員)

人工林が多い中、経済効率や作業効率を考えた場合に、広葉樹の方が苗木の値段が高い、それから下刈りの時に灌木と一緒に伐ってしまいやすい、間伐等の際の枝が太く枝払いがしにくいなど、広葉樹が進まない現実がある。ただし、防災の観点から、経済よりも優先される急傾斜地等は、行政に協力して進めたい。

(委員長)

山には、以前崩壊した跡の溜まり土がある。そこは、土地が肥えた良い場所になるが、水害の場合は、そこからも崩壊していくので、広葉樹も尾根だけでは難しい。専門家に相談した方が良い。

(委員)

広葉樹を進めていく中で注意点は、全国的に森林所有者1人1人の森林所有面積小さいため、また広葉樹は針葉樹と比べ採算が合わないため、広葉樹の誘導は難しい。よって、広葉樹の誘導は、災害に強い森づくりを進めるため、採算が合わないから、行政的な支援をする体制をつくる必要がある。

(委員長)

広葉樹の用途は少ないが、採算性は全くゼロではない。また、ただ単に広葉樹はお金にならないでは、山主はついてこない。山づくりのためには、一定程度必要なものである。

(委員)

広葉樹関係ではないが、災害に強い又は防災の観点で一緒に考えたい内容がある。事前に備える観点から、今回の熊本県の災害時の対応として、仮設住宅がほぼ木造で建設されており、これは、全国木造建築協会と熊本県が提携して実施している。大分県では協定をしているが、あまり進んでいない。もし被災した時に、どう仮設住宅をどう準備するかという時に、日田では木材もあるし建設する人もいる中で、プレハブではなく木造の仮設住宅の検討・準備を行ってほしい。また、平成29年東峰村での災害時も仮設住宅も木造であったし、東北の災害時は、プレハブが間に合わない箇所は木造仮設住宅であった。建築士側がやりたいと思っても、災害の材料の供給など、課題は数多くあって、災害が起きた時では、間に合わないため、関係者が多く出席される中で一緒に考えていただきたい。

(委員)

熊本県の事例など、規格の標準化も進んでいる。木材のボリューム感や金額などもわかるはずなので、需要拡大の取組に有効であると考えている。

(委員長)

仮設住宅の使用は、1か月2か月ではなく、1年2年の期間必要であり、その際はやはり木造の方が良い。また、建設にはスピード感も必要で、また木造経費の問題のほか、断熱材使用など、建築基準法との関係もある。この問題を例えば、大径材の活用や譲与税の活用としても一緒に考え、日田材の売込みや需要拡大につながるよう検討してもよいかもしれない。

8、その他

(委員)

日田林工高校(林業科)の求人状況や就職状況等説明 (省略)

9、閉会

令和2年度日田もりビジョン推進検討委員会 委員名簿

任期:R2.8.3~R4.3.31

No	所 属	役 職	氏 名	備 考
1	大分県林業経営者協会	顧 問	長 哲也	委員長
2	日田市森林組合	管理指導課長	柿本 明宏	
3	日田木材協同組合	総務課長兼 製品共販課長	矢羽田 康成	
4	日田地区原木市場協同組合	業務委員長	足立 鷹彦	
5	大分県森林インストラクター会	副会長	財津 忠幸	
6	大分県建築士会日田支部	常議員	澤熊 祐子	
7	株式会社トライ・ウッド	参 事	古川 和博	
8	協同組合日田家具工業会	事務局長	上部 和彦	
9	日田林工高等学校	林業科主任	坂本 信教	
10	大分県西部振興局農山村振興部	部 長	神鳥 浩明	
11	日田市農林振興部	部 長	橋本 哲治	

事務局: 林業振興課